

事業区分	文化芸術事業		育成・創造事業	
事業名	ヤング・プロデューサーズ・シリーズvol.4 邦楽開化～伝統から挑戦へ 次代へひきつぐ日本の音			
目的・内容	鳥取県在住の若手プロデューサーを育成する。 併せて、本公演を通じて伝統音楽の素晴らしさを広く県民に伝えるとともに、子どもたちが身近に伝統楽器と触れ合い、次世代に受け継ぐ新しい邦楽の環境づくりを図ることを目的とする。また、地元アーティストに発表の機会を提供し、さらなる技術向上とスキルアップに繋げる。 【使 命】「文化芸術活動の発信と交流」「文化人口の拡大とレベルアップ」 「多彩な人材育成とキャリア開発」、「子どもの文化芸術活動の推進」 【事業の柱】「文化活動者との協働による自主制作事業」「鳥取県内外の人材を活用した事業」			
開催日時	平成25年3月10日(日) 開演14:00			
会 場	米子市文化ホール メインホール			
入場料 (友の会・団体)	一般 1,500円 (1,000円)	高校生以下 500円 —		
集客状況	入場者数 552名	設定席数 672席	集客率 82%	
事業費状況	予算額	収入 510,000円	支出 5,439,000円	収支比率 9.4%
	決算額	収入 750,500円	支出 5,725,805円	収支比率 13.1%
来場者 アンケート (主なもの)  回答者数 204名	<p>回答率 37%、満足度 76%、新規顧客獲得率55%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・邦楽開化、とても素晴らしいプロデュースで、若者たちに邦楽を伝える方法として良かったです。今後もっと若者が興味関心を持ってくれるように伝えていければと思います。</li> <li>・初めての邦楽のコンサートでしたが、音色の素晴らしさに感動しました。</li> <li>・日本の伝統文化を肌を感じる事ができて、午後の良いひとときを過ごさせていただきました。</li> <li>・ことの音色が心にのこりました。全部いきおいがあって、すごかったです。</li> <li>・大変感動し、涙が出ました。クラシックばかりではなく、邦楽の素晴らしさを知りました。</li> <li>・箏の演奏だけでなく、ステージ上の花、照明が良かった。</li> <li>・米子西高の生徒さんの演奏など、若い方にもっと活躍の場があると良い。</li> <li>・普段邦楽を聴くことがあまりないので、とても新鮮でした！</li> <li>・各団体の衣装、ステージの生花など、音だけではなく目でも楽しめるもので良かったです。</li> </ul>			
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入場者数は552名と会場がほぼ満席となり、一時は立ち見の方が出るなど多くの方に来場いただくことができた。</li> <li>・公演の満足度やアンケート結果により、新しく邦楽の魅力に気づいた、あるいは再認識した方が多く、伝統音楽の素晴らしさを広く県民に伝えることができた。</li> <li>・新しい日本の音として委嘱作品「飛鳥天喜」という邦楽曲を残すことができた。</li> <li>・幅広い年齢層の地元アーティストへ発表の機会を提供でき、活動の場が広がるとともに、邦楽団体同士の新たな交流を図ることができた。</li> <li>・プロデューサーへのアートマネジメントに関する知識の提供の提供として、実践に沿った流れで研修を行うことができた。</li> <li>・とりアート地区事業(東部・中部・西部の3地区)に参加し、和楽器に触れる体験を通して、身近に伝統楽器と触れ合う機会を設けることができた。</li> <li>・生け花、ダンス、ヘアメイク等から、照明、舞台そして演出等、公演内容に創造的な工夫を多く取り入れることができた。</li> </ul> <p>[課題等]</p> <p>(プロデューサーの育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起用するプロデューサーの経歴や実績に合わせた財団としての育成基盤を作る必要がある。育成した人材の継続的な活用。</li> </ul> <p>(事業担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロデューサーの育成を常に見据えた事業担当者のさらなるアートマネジメント力の向上が課題。</li> </ul> <p>(邦楽の環境づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層の邦楽奏者が活動する機会や場所が限られていること、和楽器と触れ合うことの機会がクラシックなど他のジャンルと比べて極めて少ない。</li> </ul>			
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観客動員も素晴らしかった。</li> <li>・伝統音楽に興味を持ってもらう講座を全県にわたり取り組んだことに経緯を表す。和楽器の浸透は、教育関係も含め、あらためて注目すべき。</li> <li>・「米子八景」に続き「飛鳥天喜」という素晴らしい作品がまた誕生した。ぜひ再演を期待する。</li> </ul> <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出演者がチケット販売を積極的に頑張っておられたが、組織的な販売はどうだったか。</li> <li>・出演者関係のお客様と思われる方が、その演奏者の出演が終わると同時に退席され、残念に感じた。発表会ではないので、演奏会全体を楽しんでいただく働きかけが必要。</li> <li>・プロデューサーが、どう育ったかを検証する機会が必要ではないか。</li> </ul>			
今後の対応、 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロデューサーの育成はわずか1回の公演だけかなく、継続し経験を積んでいくことが本来の育成へと繋がる。今回のプロデューサーのように、とりアート(鳥取県総合芸術文化祭)地区委員としての関わりや財団主催事業への起用など、引き続き育成の場を作るとともに、支援及び連携を深めていくこととする。</li> <li>・作品創造においての組織体制の構築は重要であり、起用するプロデューサーの経歴や実績に合わせた財団としての育成基盤を整えていく。</li> <li>・邦楽の新たな魅力を発信した本公演が一過性のもので終わることなく、鳥取県の文化振興を担う財団として、今後も子どもたちが身近に和楽器と触れ合える場を支援する環境づくり、邦楽活動者の支援、後継者育成、県内邦楽団体の活性化、ネットワークづくりを図っていく。</li> </ul>			